

レスリング選手の性格特性（第9報）
—第26回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会における試合前後
の情緒の変化と試合成績との関係・上位三大学の場合—

**A study of the correlation between characteristic traits
and peak performance of Wrestling IX
—Analysis of the (2000) 26th prime minister's cup national collegiate
freestyle Wrestling championships—**

滝山 将 剛*, 朝 倉 利 夫*, 下 田 正二郎**
高 田 裕 司**, 富 山 英 明***

Yukitaka TAKIYAMA *, Toshio ASAKURA *, Shojiro SIMODA **
Yuuji TAKADA ** and Hideaki TOMIYAMA ***

SUMMARY

Using the same method based on previous reports, we investigated the relationships between changes of characteristic traits in wrestlers just before the competition and peak performance in 26th Prime Minister's Cup National Collegiate Freestyle Wrestling Championships in 2000. Twenty-four freestyle wrestlers took part in this competition and all of them were tested above-mentioned characteristic traits test, i.e., Y-G test. Based on the results obtained from changes of individual characteristic traits of wrestlers just before (with constraint) and after (without constraint) competition, we confirmed again our previous following findings; 1) the wrestlers who have a D-type of the characteristic traits did not change their characteristic traits just before competition and showed the peak performance in competition, 2) however, some wrestlers who did not have a D-type showed their peak performance and in these cases their characteristic traits did not change just before competition without exception. Taken together our previous reports and the present findings, there is no optimal characteristic traits for the wrestler as described before. This evidence indicates that the characteristic traits of wrestlers have recently become a little change in comparison of former ones. That is, the good wrestler who can show his peak performance in competition have his characteristic traits which do not change just before the competition despite of any type of characteristic traits. Thus, as described in previous reports, training and teaching methods must be changed based on an above-mentioned clear evidence, i.e., a new method focussed on an individual wrestler have to be devised.

* 国士舘大学体育学部レスリング研究室 (Lab. of Wrestling, Faculty of physical Education Kokushikan University)

** 山梨学院大学スポーツセンター (Yamanashi Gakuin University Sports Center)

*** 日本大学 (College of Bioresource Sciences Nihon University)

はじめに

選手の競技力向上に関する要因は多種多様であるが、その要因を大まかに分類すると、選手の身体的側面（体力、技能、技術など）に関わる要因と、心理的側面（情緒、気力、性格など）に関わる要因に分けることが可能である。筆者は、選手の競技力向上をはかる目的でこれらの要因の中から、特に内面的側面として「精神力」を取り上げてきた。これは、対人種目であるレスリング競技においては、究極の場面において、ともすれば身体的優位性を凌駕して、心理的優位性が勝敗の決定に及ぼす比重が極めて高いことを常日頃痛感しているからである。すなわち内面的な側面を科学的に解析するために、性格検査として広く受け入れられ、信頼性の高さで定評のある、矢田部・ギルフォード（Yataba-Guilford）YG性格検査（以下YG検査という）を使用して、試合前に動揺しやすい選手の内面を把握することに成功した。これは、YG検査を選手の心理的变化が著しく起こると考えられる大きな試合（特に国際試合など）前後で実施し、同じ条件下でどの性格タイプの者が、どのような情緒的变化を来すかを調べた。その結果、今まで漠然と、しかも経験的に捕らえられていた選手の試合前の情緒的变化が、実際の試合結果と大きな関わり合いを持つことが分かってきた。それは、YG性格検査の性格類型と情緒尺度（O：客観性、D：抑うつ性、N：神経質）にそれらが如実に反映されていることが分かってきた。言い替えれば、「心理的側面の変化を科学的に捕らえられるようになった」、ということである。

そこで本研究は、これらの一連の解析の継続として、学生界のトップレベルにある選手の試合前後、ことに試合直前の情緒変化を把握する目的で、2000年11月18日、19日宮城県仙台市みやぎ産業交流センター（夢メッセみやぎ）で開催された、第26回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会の選手について、同様の方法を用いて、選手の情緒的側面の変化と実際の競技成績との関係に

ついて調査・解析した。

対象と測定方法

被験者は第26回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会において優勝したK大学、及び上位入賞のY大学、N大学らのフリースタイル8階級（54kg級、58kg級、63kg級、69kg級、76kg級、85kg級、97kg級、130kg以下級）の選手合計24名を対象にした。

表1にK大学、表2にY大学、表3にN大学の全選手の氏名、年齢、階級、今回の競技成績及び、過去の競技成績を一覧表にして示した。選手の情緒的变化は、前回と同様YG性格検査を3回実施した。一回目は大会出場選手決定後の平成12年11月初旬、2回目は、計量通過後の11月17日夜、3回目は、試合終了後10日経過後に実施した。YG性格検査の実施方法、その処理方法等は先の報告の通りであった。

結果と考察

1、レスリング選手の性格特性について

表4に第26回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会出場選手、3大学24名の性格類型比率をにまとめて示した。

YG性格プロフィールの類型に準じ、得られた対象者8階級24選手の試合前（普段）、試合直前（計量通過の夜）、試合後（試合後10日以上経過後）の3回の性格プロフィールから4つの型に分類可能であった。その結果から右下がり型（D-型：安定積極型）を示した選手が11名（46%）、右寄り型（B-型：不安定消極型）が7名（29%）、平均型（A-型：平凡型）を示した選手が4名（17%）、左下がり型（E-型：不安定消極型）2名（8%）であった。

これらの性格類型の内訳から、すでに報告されているスポーツマンの性格の典型であるとされている、D-型：安定積極型を示す選手が最も多く、

性格特性は先の報告を支持するものであった、注目されることは、今日までスポーツマンとしてはどちらかと言えば異端視されてきた性格特性を持つ、B-型：不安定積極型及び、E-型：不安定消極型が増えてきたことである。この傾向は近年特に顕著である。これは、生活環境の変化、時代の変化に相応して選手の内面的側面においても従来は考えられなかったような質的な変化が確実に

表1 第26回内閣総理大臣杯全日本レスリング選手権大会の氏名、階級、年齢、今回の成績及び、過去の成績 K大学

氏名	階級	年齢	今回の成績	過去の成績
T. S	54kg	22	2位	'99 インカレ 3位
S. O	58kg	20	2位	'99 新人戦 2位
K. K	63kg	21	優勝 (2連勝)	'99 国体 1位
Y. T	69kg	22	優勝	'00 インカレ 1位
T. M	76kg	22	4位	'00 インカレ 5位
T. M	85kg	22	順位なし	'98 全日本選手権大会 2位
Y. D	97kg	22	7位	'00 インカレ 2位
N. Y	130kg以下	20	5位	'00 JOC杯ジュニア 3位

※今大会は8位

表2 第26回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会の氏名、階級、年齢、今回の成績及び、過去の成績 Y大学

氏名	階級	年齢	今回の成績	過去の成績
T. T	54kg	21	優勝	'99 インカレ 1位
T. A	58kg	20	順位無し	'99 全日本JR選手権大会 2位
S. I	63kg	20	5位	'99 インカレ 2位
A. K	69kg	20	順位無し	'99 新人戦 8位
K. O	76kg	20	優勝	'00 全日本選手権大会 1位
T. Y	85kg	21	順位なし	'00 関東選手権 1位
K. K	97kg	21	優勝 (2連勝)	'99 全日本選手権大会 1位
T. F	130kg以下	19	2位	'00 全日本大学選手権大会 3位

※今大会は8位まで入賞

表3 第26回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会の氏名、階級、年齢、今回の成績及び、過去の成績 N大学

氏名	階級	年齢	今回の成績	過去の成績
T. K	54kg	19	順位なし	'99 インカレ 1位
S. O	58kg	20	7位	'99 新人戦 3位
K. T	63kg	20	8位	'99 インカレ 2位
S. T	69kg	20	順位なし	'99 全日本大学選手権大会 4位
M. H	76kg	21	順位なし	'99 インカレ 3位
T. S	85kg	21	3位	'00 全日本選手権大会 1位
Y. S	97kg	21	優勝 (2連勝)	'99 関東選手権大会 1位
T. Y	130kg以下	22	2位	'00 全日本大学選手権大会 3位

※今大会は8位まで入賞

表4 第26回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会の性格特性の人数とそのパーセンテージ
フリースタイル8階級

D-型 (安定積極型)	11名 (46%)
B-型 (不安定積極型)	7名 (29%)
A-型 (平凡型)	4名 (17%)
E-型 (不安定消極型)	2名 (8%)

N=24

起こっていることを示唆している。しかも、これらの選手が好成績を納めていることから、従来の決まりきったパターン化した画一的な選手管理のやり方では対応できないことを意味しており、技術面での改変と平行して、指導者は常に個人のパーソナリティーを十分考慮しておかなければならない重要な問題である。

2、試合前後の情緒の変化について

先の報告において、対象者全員の各尺度の平均値について検討を試みたが各選手の特徴が相殺され事実の解釈が不可能であったことから、今回は各選手の特徴について、個々に考察することにした。付言すれば、今までの日本人的な発想の原点として、物事すべて平均的に見ようとする発想(中庸の精神?)があり、成功する例が多かった。しかし、世界の頂点に立つには、この発想がかえってマイナスで、他とは違った特徴的なものに注目することの重要性が示唆される。そこで今回は対象者の中で各階級の優勝者6人及び、特徴ある選手について考察することにした。(但し54kg級優勝者のY大学のT,T選手については試合直前のYG検査が取れなかったために考察からはずした)。

(1) D-型について

図-1は、D-型を示し今大会76kg級優勝のY大学2年生K.O選手のものである。選手の評価は、1999年大学1年生で全日本選手権大会で優勝した選手で、シドニーオリンピック予選では世界の壁を超えることはできなかったが将来を嘱望される選手である。情緒尺度について、試合直前でも著しい変化は示さなかった。典型的なD-型を示す選手であり、先の報告の通り、このタイプの選手においては情緒変化をきたさない場合においては十分力を発揮できることを示唆している。言い換えれば、普段から精神的に安定、充実した状態で試合に備えているものと考えられる。

図-2は、D-型を示し、今大会87kg級優勝(2連勝)のY大学K.K選手のものである。選手の評価、学生界は勿論のこと、全日本レベルで活躍している選手で、重量級では過去の選手にはなかったスピードを持った選手である。情緒尺度について、D尺度(抑うつ性)は変わらず、C尺度(回帰性傾向、気が変わり易い、感情的になる)、N-尺度(神経質)等の情緒不安定性を示す尺度において減少がみられる。このことはD-型に属する選手の持つ特徴であり、試合直前において情緒的側面の充実を図ることのできることで好成績につながったものと思われる。

図-3は、D-型を示し、今大会63kg級優勝(2連勝)のK大学K.K選手のものである。

選手の評価、今大会後の全日本選手権大会でも優勝し、着実に力をつけてきた。国際的に活躍ができる選手として将来が期待されている選手である。

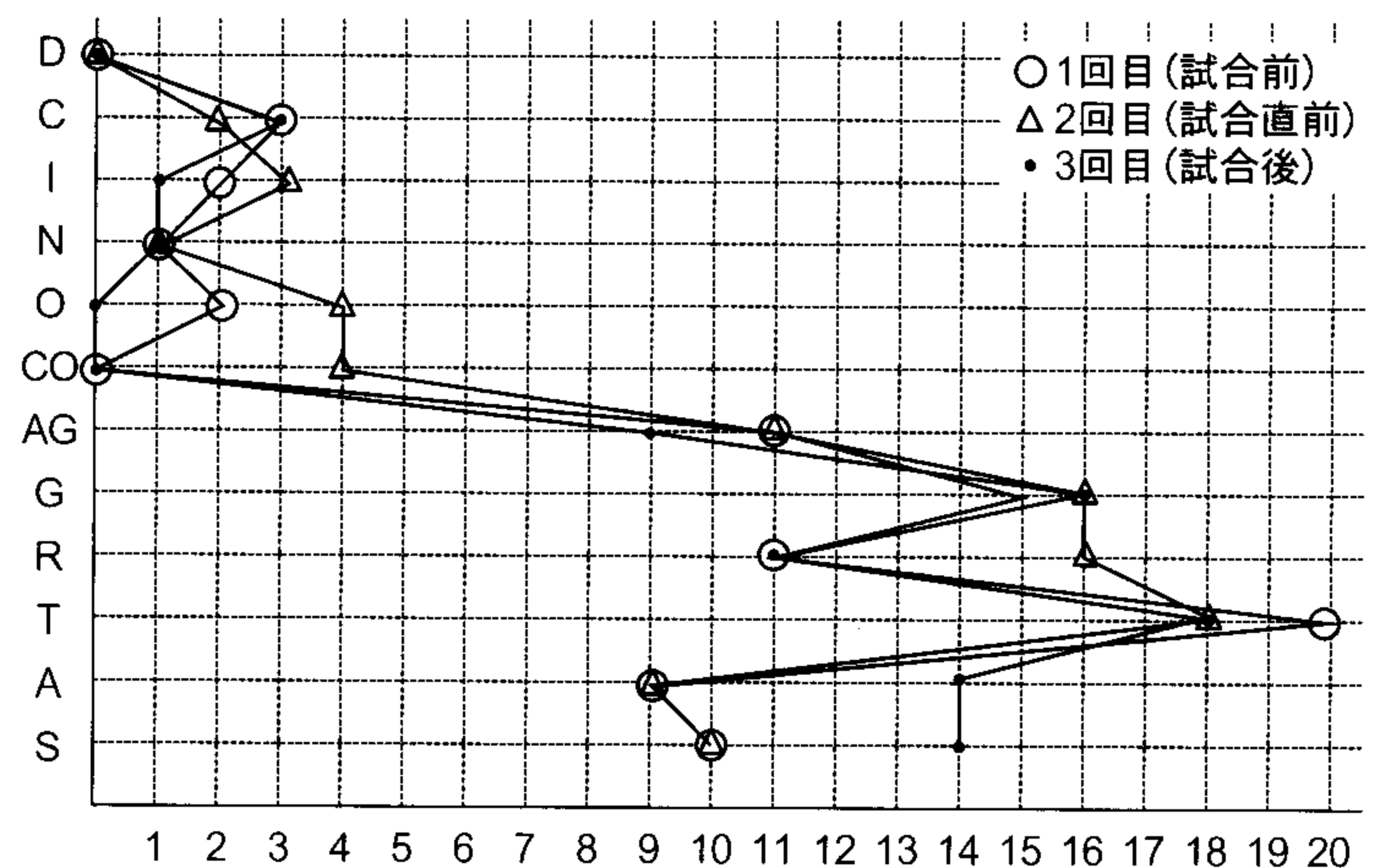


図1 D-型を示し76kg級で優勝したY大学K.O選手の結果

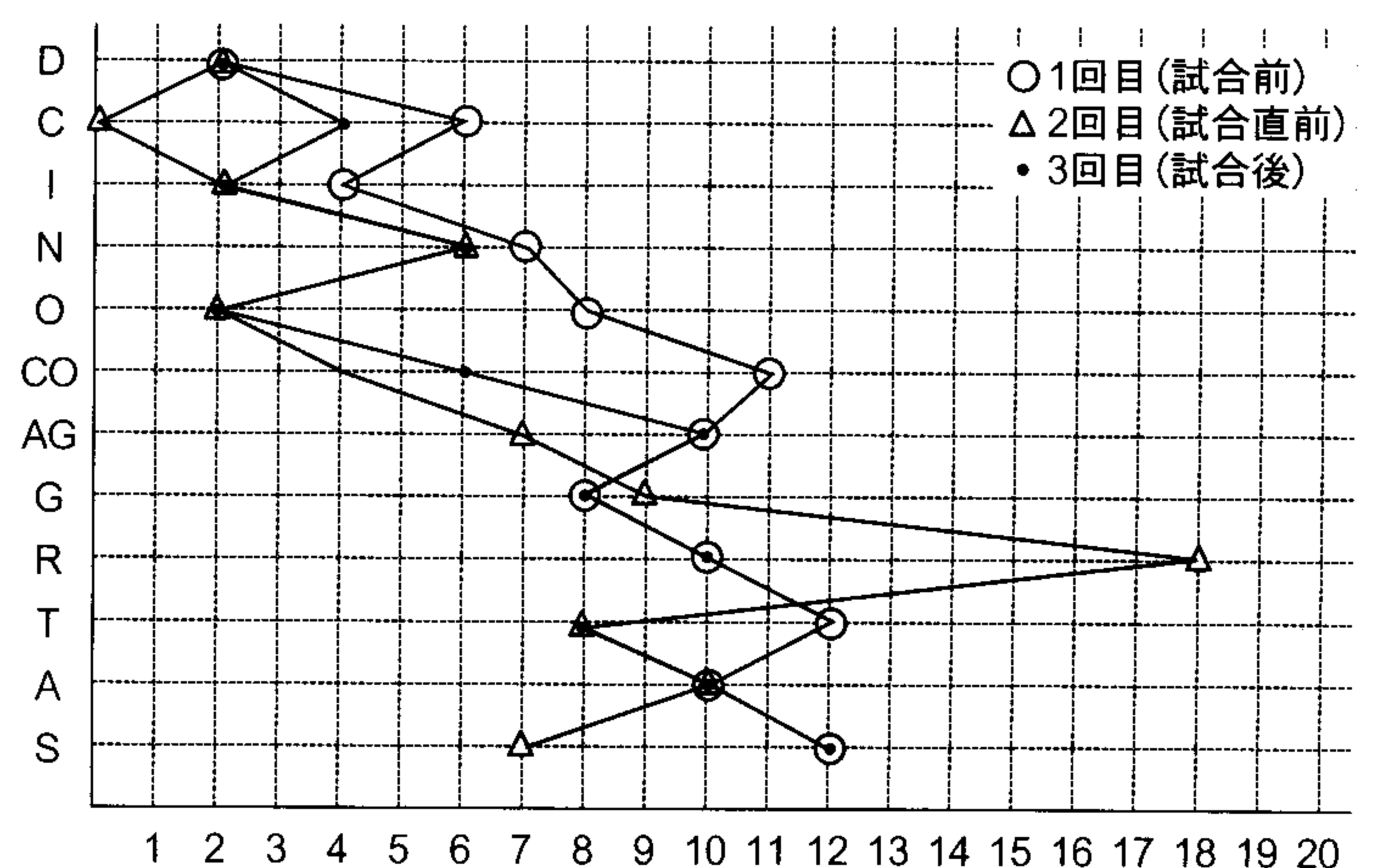


図2 D-型を示し97kg級で優勝したY大学K.K選手の結果

る。情緒尺度について、試合直前においても著しい変化は示さなかった。先に述べて図-1の選手同様に、D-型を示すタイプの選手は、試合直前の情緒変化を示さない場合においては持てる力を十分発揮できることを示唆している。このことは先の報告を支持するものであり、安定した精神状態で試合に臨むことのできる選手であると推察される。

図-4は、D-型を示し、今大会85kg級で3位のN大学T.S選手のものである。選手の評価は、今大会は1階級、階級を上げての出場であった。また、得意はグレコローマンスタイルである。今大会後の全日本選手権大会でグレコ76kg級で優勝、グレコで将来が期待されている選手である。情緒尺度について、D尺度（抑うつ性）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）等の情緒不安定を示す尺度において減少がみられる。このことは、

図-2の選手同様、D-型に属す選手の特徴であり情緒的側面の安定が自己の持つ力を発揮できることを支持するものであった。

(2) B-型について

図-5は、B-型を示し、今大会130kg以下級で優勝したN大学T.Y選手のものである。選手の評価、高校時代から活躍している選手で、普段の試合内容から精神面の強さが望まれる選手である。情緒尺度について、試合直前に情緒の不安定を示す、D-尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向）、I尺度（劣等感）、N尺度（神経質）の情緒変化がマイナス要因への変化が顕著にみられ緊張感の高まりが推察できる。しかし、この緊張感の中において自分の持てる力を発揮しているものと考えられる。この現象が自分を見失ってしまういわゆる「あがり」の現象なのか、単なる緊張

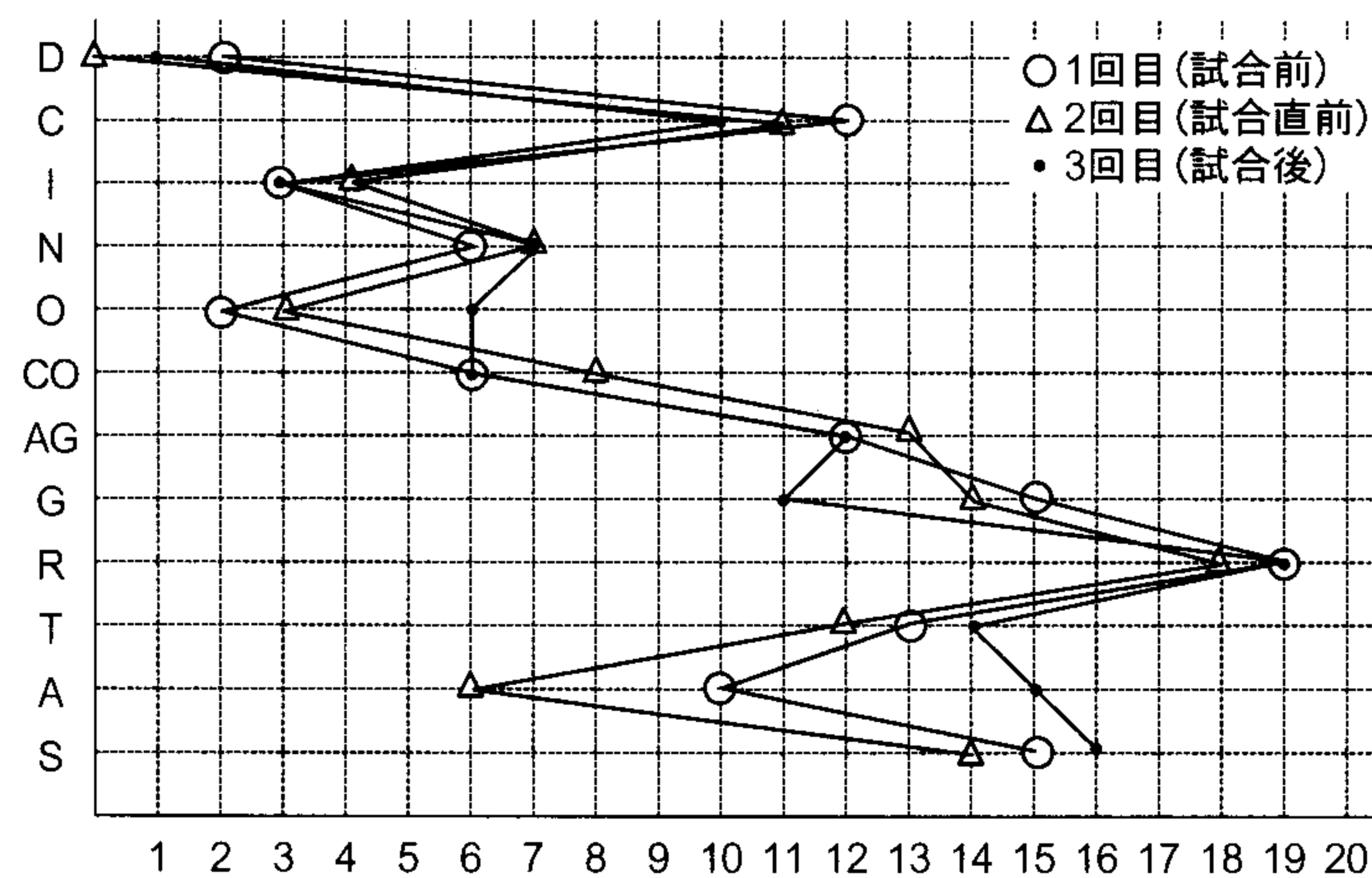


図3 D-型を示し63kg級で優勝のK大学K.K選手の結果

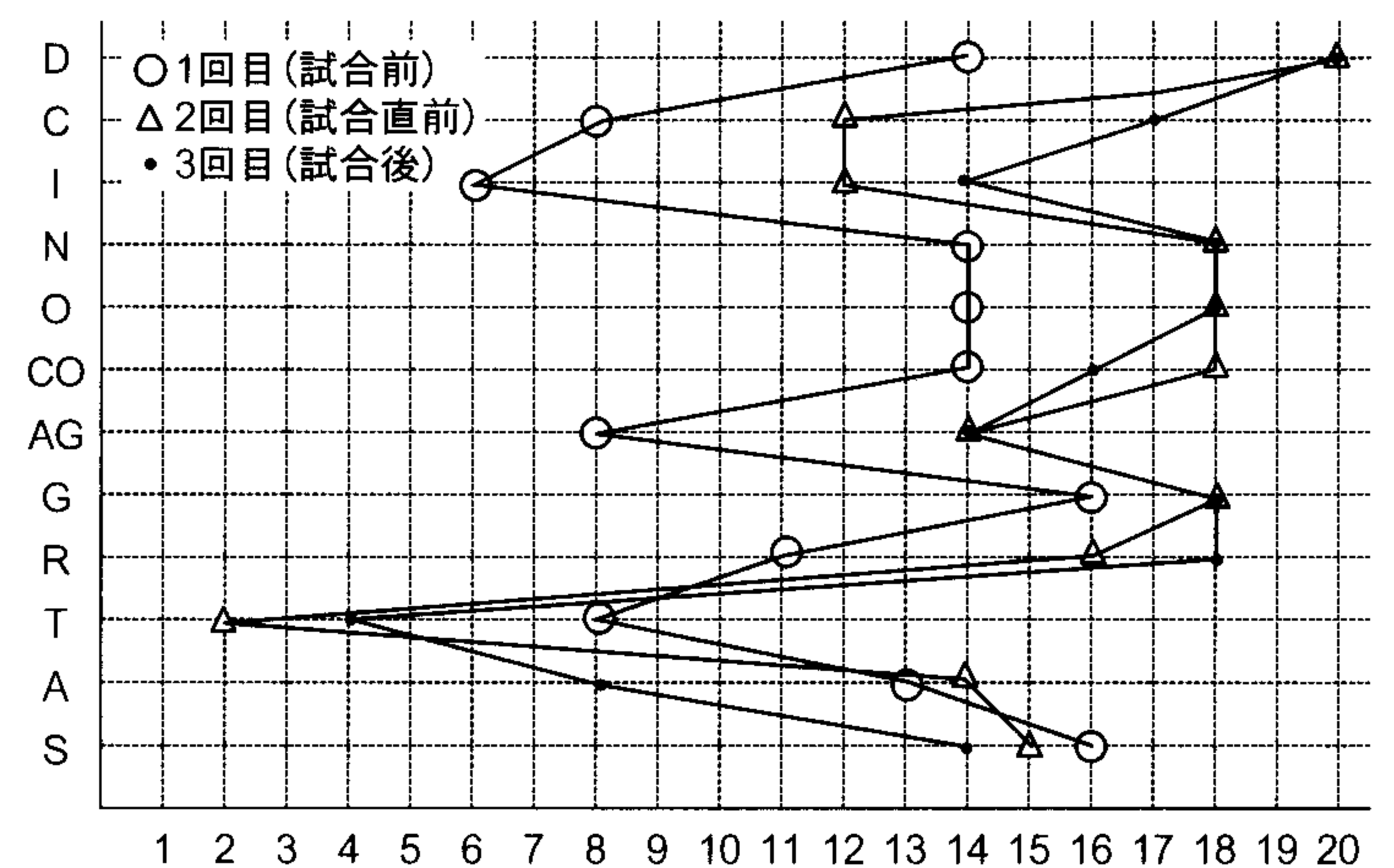


図5 B-型を示し130kg以下級で優勝のN大学T.Y選手の結果

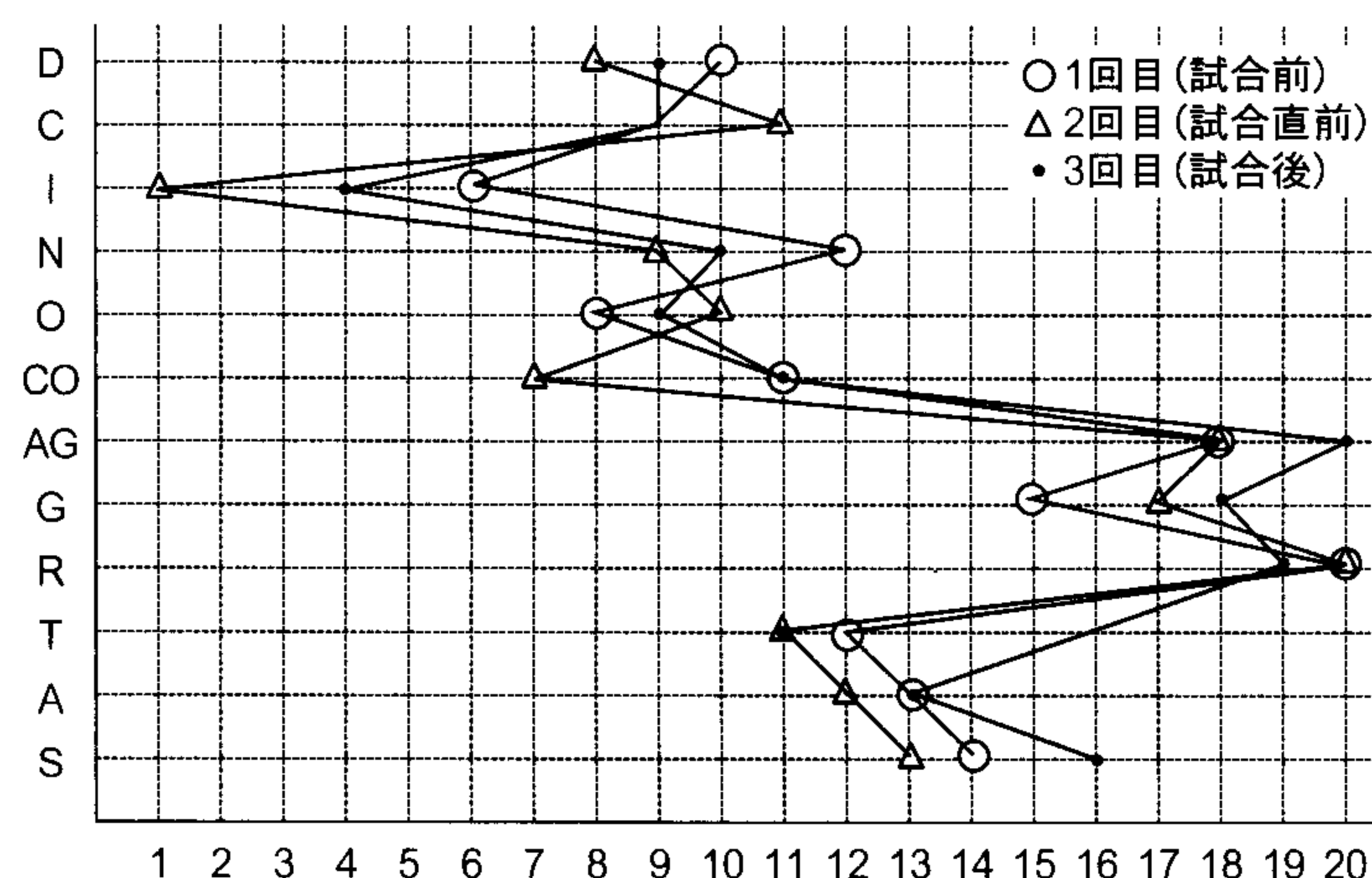


図4 D-型を示し85kg級で3位のN大学T.S選手の結果

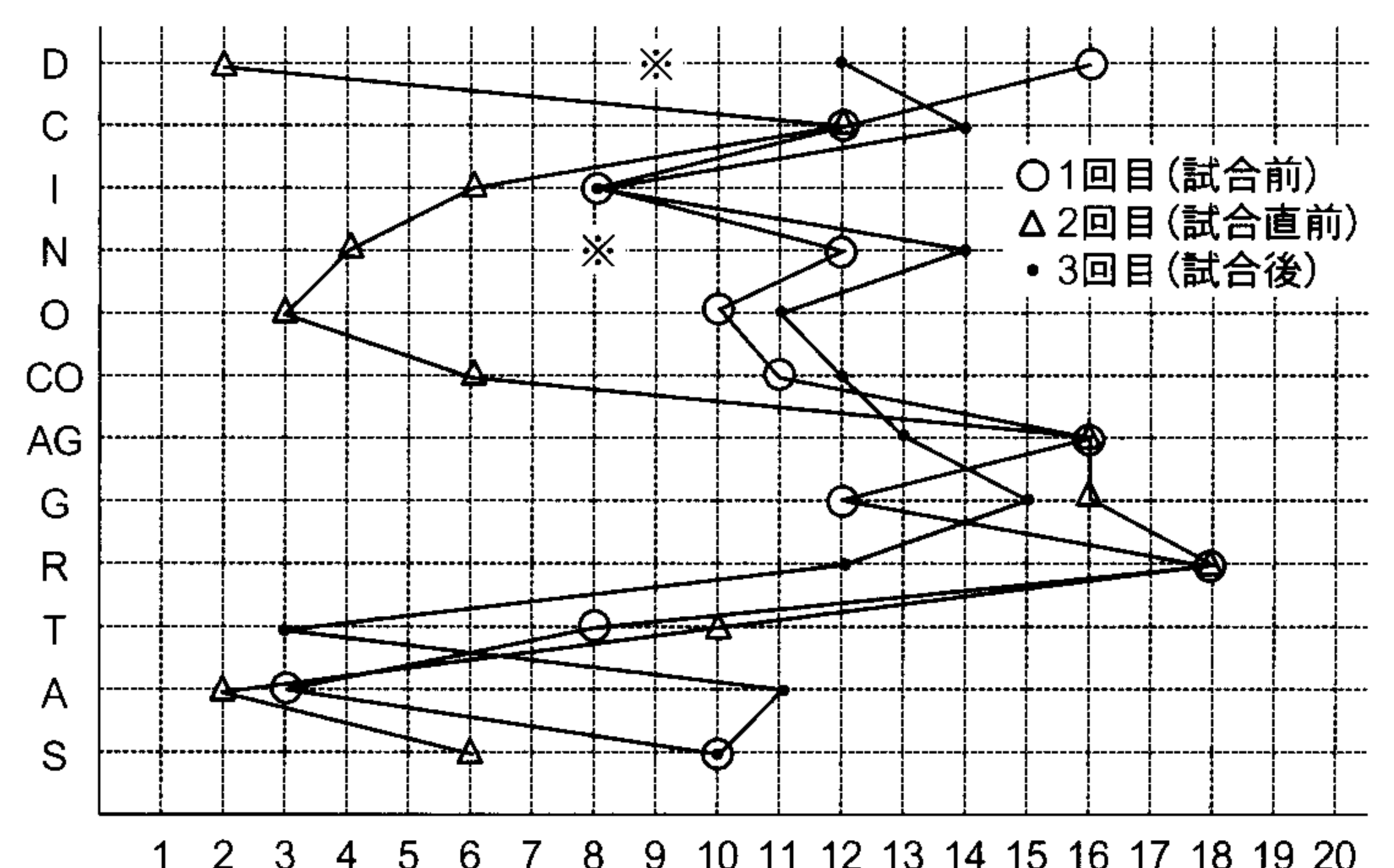


図6 B-型を示し69kg級で優勝K大学のY.T選手の結果

感であるのかについて今後の課題である。

図-6は、B-型を示し、今大会69kg級で優勝したK大学Y.T選手のものである。選手の評価、高校時代から将来が期待されていた選手で、順調に成長している選手である。情緒尺度について、試合直前において情緒不安定の尺度がプラスの要因に変化していることがみられる。とくに、D尺度（抑うつ性）及び、N尺度（神経質）が極端に減少していることが注目される（図-6の※印）。試合直前において情緒的側面の不安定さが嘘のように払拭されているケースである。どちらかと言えば、スポーツマンとしては異端視されてきた性格特性を持つ選手で、情緒的側面のドラマチックな変化と試合結果が見事にマッチした選手が出現したことになる。このような例は、数少ないケースであるが、先の報告においてオリンピック大会で活躍した選手にもみられた現象である。この事実は、格闘技としての今後の選手養成に関して、特に重要な方向性を示唆するものと思われる。

ま と め

第26回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会優勝のK大学及び、上位入賞のY大学、N大学の3大学の選手に対するYG性格検査の結果から、D-型11名（46%）、B-型7名（29%）、A-型4名（17%）、E-型（8%）の性格類型がみられた。優勝者の性格類型は、D-型が4名、B-型が2名であった。

従来のレスリング選手の性格特性は、典型的なスポーツマン的性格といわれるD-型を示す選手が大半であったが、E-型及び、B-型を示す選手が顕著に増加していた。しかもこれらの内から好成績を納めている選手が多数みられた。最近の選手の性格特性の変化がみられる事実と情緒的側面の変化が実際の試合場面において、選手の性格に大きく依存してプラスにもマイナスにも作用することを指摘した。この傾向は、先の報告を支持するものであった。指導者は、これらの事実を十分

認識して、選手の指導にあたる事が極めて重要な問題である。

本研究は体育学部附属体育研究所の平成12年度研究補助によって実施した

引用・参考文献

- 1) 花田啓一・他；スポーツマンの性格、不昧堂、p.83～92, 1868.
- 2) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性（5報）—第24回ソウルオリンピック大会の試合前後における情緒の変化と成績との関係—、国土館大学体育研究所報、p.13～19, 1988.
- 3) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化と競技成績との関係—、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No11競技力向上に関する研究、p.206-209, 1991.
- 4) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒変化と競技成績との関係—、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No11競技力向上に関する研究、p.277～279, 1992.
- 5) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化と競技成績との関係—、日本体育協会医・科学研究報告、No11競技力向上に関する研究、p.259～262, 1994.
- 6) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性（6報）；—1993年度世界選手権大会及びエスポアール世界選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係—、国土館大学体育研究所報、Vo12, p.7～12, 1993.
- 7) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合直前の情緒変化と競技成績との関係—、日本体育協会医・科学研究報告、No11、競技力向上に関する研究、p.291～294, 1995.
- 8) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性（7報）、—第21回内閣総理大臣杯全日本学生レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と試合成績との関係・優勝チームのK大学の場合—、国土館大学体育研究所報、Vo14, p.11～14, 1996.
- 9) 滝山将剛；レスリングの性格特性（8報）、—第23回内閣総理大臣杯全日本学生レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と試合成績との関係・K大学の場合—、国土館大学体育研究所報、Vo16, p.63～68, 1997.
- 10) 辻岡美延；YG性格検査手引き、日本心理テスト研究所、1978.